

保存版・防災ハンドブック

Sonaeru Times Kyoto

ソナエルタイムズ キョウト

vol. /

みんなはヒーローだ！

消

家族で一緒に
防災を学ぶのです！

とびらをあ
扉を開けよ

京都府広報監
まゆまる

特別協力



京都府

監修 京都府危機管理部

発行元

ASAKO
OSAKA

企画協力



京都新聞



結乃社中

東日本大震災において、日ごろの防災教育を率先行動につなげた、岩手県釜石東中学校の生徒たち。今回は当時震災を経験し、語り部活動もされていた卒業生の方にお話を伺うことができました。ぜひ、お子様とのコミュニケーションに役立てながらご一緒にお読みください。



京都府危機管理部より小学生と保護者のみなさまへ

いつ起こるかわからない災害から、かけがえのない「命」を守るためには、災害が起こった時にどうすればよいか、普段から考えておく事が大変重要です。災害は、決してテレビの向こう側の話ではありません。いつ、どこで起こってもおかしくはないものです。このハンドブックが、小学生の皆さんはもちろん、保護者の方も一緒になって災害を「自分ごと」「家族ごと」として考えてみるきっかけになるよう、強く願っています。

京都府危機管理部

協賛

一般社団法人京都府LPガス協会
京都府行政書士会
一般社団法人京都府自動車整備振興会
真宗大谷派（東本願寺）
株式会社成基
全京都建築労働組合（京建労）
東京海上日動火災保険株式会社
ネットヨタヤサカ株式会社
学校法人花園学園 花園中学・高等学校
株式会社プラニ
まるかさ株式会社
龍谷大学付属 平安高等学校・中学校
株式会社ワオ・コーポレーション
（五十音順）

特別協力

京都府

監修

京都府危機管理部

発行

株式会社大阪朝日広告社 京都支店

企画協力

京都新聞・結乃社中

協力

学校法人京都女子学園 京都女子大学
株式会社京都パープルサンガ（京都サンガF.C.）
株式会社8kurasu
（五十音順）

目次

- P.05** 【巻頭特集】復興支援特集「あのひの記憶からあしたを導き出す。」
- P.06** インタビュー「釜石の出来事」に学ぶ、日々の防災教育の大切さ
- P.10** おおあめ たいふう そな 大雨・台風に備えよう① キミと家族を守り抜け!!
- P.11** おおあめ たいふう そな 大雨・台風に備えよう② 大切な京都のまちの過去の災害を知ろう
- P.12** おおあめ たいふう そな 大雨・台風に備えよう③ 避難のタイミングを見定めよう!!
- P.13** おおあめ たいふう そな 大雨・台風に備えよう④ これから、準備すべきこと
- P.14** おおあめ たいふう そな 大雨・台風に備えよう⑤ 災害に備える3つの教訓
- P.15** 「タイムライン」の基本を学ぼう① 表紙
- P.16** 「タイムライン」の基本を学ぼう② 家族でタイムラインを作ってみよう
- P.17** 「タイムライン」の基本を学ぼう③ 簡易版を実際に作ってみよう!
- P.18** 「タイムライン」の基本を学ぼう④ さあ、いよいよ実践だ!!
- P.19** わ や ぼうさいどうけいかく 我が家の防災行動計画 マイ・タイムライン（京都市）
- P.22** とくしゅう か ぞく 【特集】家族でファシリテーションを実践してみよう!!（京都女子大学）
- P.24** とくしゅう きょうと かん い ばん じっさい つく 【特集】京都サンガF.C.の選手たちからのエール!（京都サンガF.C.）
- P.28** とくしゅう きょうと しんぶん きょうと しんぶん 【特集】いつでもそばに 京都新聞（京都新聞）

あのひの記憶から

あしたを導き出す。



写真“気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館”

“釜石の出来事”から学ぶ、日々の防災教育の大切さ

菊池のどかさんは中学3年生のとき、東日本大震災で甚大な津波被害を受けた地区の中学校に通われていました。この震災時の率先行動は「釜石の出来事」と呼ばれ、全国で防災教育の教訓となっています。災害が起きるまでにどのような防災教育を受けていたのか、また災害が発生したとき、どう行動につながったのかを、ぜひ聞いてみましょう!



菊池のどかさん

岩手県釜石市立
釜石東中学校卒業生
菊池のどかさん
インタビュー

“釜石の出来事”

から学ぶ

日々の
防災教育の大切さ。

巻頭特集
interview

「毎日を大切に」生きてください。
すべての学習が災害時の行動に繋がります。

株式会社Skurasu
菊池のとかさん



釜石東中学三年の時、東日本大震災が起きる。隣接する小学校の児童たちと共に高台へと逃れる。釜石高校進学後より取材を受けるようになり、語り部としての活動を始める。教員として防災教育を行うことを目指し教員免許取得。大学卒業後、釜石市「いのちをつなぐ未来館」の職員になる。現在は株式会社Skurasuにおいて震災語り部活動の経験を活かして、新たな防災教育事業に取り組んでいる。

01 私これまで

震災が起きる前。

学校では、総合学習や授業で防災教育を受けていましたが、印象的だったのは、授業の余った時間に先生が教えてくれる小さな積み重ねの授業でした。例えば、教室にいたときに地震があったら机の下に潜るのは正しいけど理科室にいるときは机の下に潜ったらだめだよ、とか、ここは強化ガラスだけどここは普通のガラスだから、地震が起きた時は、教室の中央に逃げないとだめだよ、など「あ、たしかに」と思えるような知識の積み重ねで、短く沢山学習することが防災教育の浸透につながったのだと感じています。また、日ごろの暮らしの中でも、自然と周囲の変化を気にしていたように思います。震災直前も、池の金魚が並んで動かなかったり、鳥が低空飛行でずっと旋回していたり、山から変な音がしたり。自分自身で気付く事もあれば、友人から言

われて「たしかに」と思ったり。そしてハザードマップで浸水区域外にあった学校でも、津波は危険だという共通認識が浸透していました。また、地域の方とのコミュニケーションも学習に繋がりました。もともと地域では「ねまる」という文化があって、災害が起きた時にどうするのか、過去の経験から教えてくれる環境がありました。普段から学校に来ていただくより、私たちから地域に出て、津波の話をしてくれる方に話を聞きに行ったり、よく近くの公民館へ遊びに行っていました。地域の人たちと一緒に防災マップを作成したこともあり、地域コミュニティが出来上がっていました。今になって思うことは、学校だけでなく、日ごろの暮らしで家庭や地域でも教えてもらう環境が多かったのだと思います。

震災が起きた時。

地震が発生した状況では、中学生はパニックになっている人はほぼいませんでした。私たちは、ほとんど避難訓練と同じように動き、訓練通りにいかない部分は、先生の指示をよく聞いて冷静に指示通り行動しました。私たちが率先避難できた背景には、学校や家庭、地域からの防災教育で学んだ、地震の特徴から津波が来るという早く判断出来た事、教職員も津波が来る事を疑わずに避難させてくれた事、訓練でどこに逃げたら良いか、全

員が理解していたからだと思います。親とは、津波がきたらどうするのかを常に話し合い、「揺れが小さくても長く続いた時は津波に注意しろ」と地域の人から聞いていたことも地震から津波を連想して動くきっかけになりました。また、避難訓練ではいつも走って避難することを経験し、訓練で出来なかったことはそのままにせず話し合いで改善していたことも効果があったと思います。

02 私のこれから

震災を経て、語り部、さらに先へ。

より家族や地域の人のそばにいつもいれる職につきたいと思い、語り部になりました。語り部の活動では、まだ災害に遭った事がない地域の方にも「自分ごと」と捉えてもらえるように、自分の家族や学校・企業に置き換えて「毎日を大切にしてほしい」という思いで話をしました。震災の犠牲が大きかった故の職

なので一人でも多くの人が毎日を大切に生きようと思ってくれたら嬉しいと思いながら活動してきました。現在はSkurasuという会社に所属しています。震災時の事実を伝えるだけでなく、災害に対する考え方、向き合い方を私自身も勉強を続けながらいくつもの方法を模索して伝えられる人になりたいと思っています。

震災の事実をもっと伝えていきたい。

03 みんなで考えること

命を守るために。

防災教育は学校だけでなく、家庭や地域でも取り組むべきことだと思います。何故なら、防災教育は命を守るために学ぶものだからです。私も、東日本大震災が起きるまで大きな災害を経験したことはありませんでした。だからこそ、日ごろからの防災教育に楽しく取り組むことができました。震災を経験して、ひとりでは生きていけないことを知りました。みんなで支え合って生きているのだと、気づいてくれる人がひとりでも増えて欲しいなと思います。災害が起きた時

には子どもたちの力がとても必要になります。子どもたちに防災について自分で考える時間や場所をつくってあげて欲しいです。災害が起きたとき率先行動をとれるように、まずは自分の暮らしをきちんと知ることから。自分の暮らしをたくさん歩いて、身近に潜む課題をひとつひとつ多く見つけてください。また、地域の人たちと触れ合い、助け合いのシステムを考えてみてください。それは大きな災害を経験していないからこそ、楽しく取り組めることです。「毎日を大切に」生きてください。

子どもたちに
防災の学びを。



BOUSAI QUEST

し み まな
知って・見て・学んで

キミと家族を守り抜け!!

か ぞく まも そな
ここからはきみや家族を守るため、備えておけば
やく た じょうほう よう い
役に立つ情報を用意しておいた。

MISSION.1 大切な京都のまちの過去の災害を知ろう

- ☐ 京都でどんな災害が起こりやすいか理解せよ!!

MISSION.2 避難のタイミングを見定めよう

- ☐ 「避難指示」で必ず避難!!

MISSION.3 非常時の行動をシミュレーションしてみよう

- ☐ ハザードマップを確認せよ!!
- ☐ 家族と避難のルールを確認せよ!!
- ☐ 災害時の身の周りの危険を防げ!!

MISSION.4 災害に備える3つの教訓

- ☐ 地域の危険性を知ろう!!
- ☐ 避難行動を決めておこう!!
- ☐ 避難情報にアンテナを!!

チェックシートになっているよ。クリアしたら印☑をつけよう!!



さあ、準備はできたかな?

さっそく防災ロールプレイを体験してみよう!!



MISSION.1

たい せつ きょう と
大切な京都のまちの

過去の災害を知ろう

ぼうさいきんきゅう 防災緊急クエスト

ヒーローたちが防災リーダーとなる第一歩。
京都で起きた過去の自然災害を学んで、防災意識を高めよう!

平成26年 8月豪雨



提供：国土交通省近畿地方整備局

平成29年 台風21号



提供：国土交通省近畿地方整備局

台風による被害
大雨・豪雨による被害

平成25年 台風18号



提供：国土交通省近畿地方整備局

平成30年 7月豪雨



提供：国土交通省近畿地方整備局

平成24年 南部豪雨



河川の氾濫や土砂崩れ、
浸水被害が各地で発生!

経過報告書

ここでは過去の災害について学び、これからどんな災害に
気をつけるべきなのかを考えることができたと思う。

次なるミッションは「避難」だ!!

CLEAR!



MISSION.2

避難のタイミングを見定めよう!!!

ぼうさいきんきゅう

防災緊急クエスト

ひなんしじ はつれい
「避難指示」が発令されたらすぐに安全確保、合言葉にして備えておこう

けいかい
警戒レベル

ひなんじょうほう
避難情報・とるべき行動

5

きんきゅうあんぜんかくほ
緊急安全確保

いのち きけん ただ あんぜんかくほ
命の危険。直ちに安全確保!!

けいかい
警戒レベル

4 までに必ず避難!!!

4

ひなんしじ
避難指示

きけん ぜんいん
危険なところから全員逃げる!!

!! 3

こうれいしゃとう ひなん
高齢者等避難

こうれいしゃ しょうがい きけん
高齢者や障害のある人は危険なところから逃げる!!

2

おおあめ こうずい たかしおちゅういほう
大雨・洪水・高潮注意報

ひなん じゅんび はじ
避難の準備を始めよう!!

1

そうきちゅういじょうほう
早期注意情報

こんご きしやうほう ちゅうい
今後の気象情報に注意!!

経過報告書

こんかいまな あいことば
今回学んだ合言葉は、ヒーローたちの家族や周りの人たちにも

おし つぎ さいがい ぞな ただ こうどう
教えてあげよう。次なるミッションは、災害に備えるための正しい行動だ!!

CLEAR!

MISSION.3

これから、準備すべきこと

ひじょうじ こうどう

非常時の行動をシミュレーションしてみよう

START

3 防ぐ

きちやうひん たか ぼしよ
・貴重品などを高い場所に
移動させよう

はいすいこう
・排水溝がふさがれていないか
いどう
点検しよう

4 避難する

しちやうせん してい ひなんぼしよ
市町村が指定した避難場所、
あんぜん しんせき ちじん いえ
安全な親戚・知人の家、
かいじじょう あんぜん ぼしよ
3階以上の安全な場所など

QUEST
CLEAR!!

1 知る

じたく きけん
ハザードマップで自宅の危険、
ひなんぼしよ かくにん
避難場所を確認しよう

2 話しかう

かぞく
家族で「いつ」「どこへ」
なに も
「何を持って」「どのように」
ひなん はな あ
避難するか話しかう

経過報告書

いざというときに慌てないように、
じゅんび
準備しておくことを学べたかな。

つぎ
次のページはミッションのおさらいだ!!

CLEAR!

MISSION.4

災害に備える3つの教訓

水害・土砂災害発生前の心得

1 地域の危険性を知ろう

京都府マルチハザード情報提供システムを
チェックしておこう。

2 避難行動を決めておく

早めに安全な場所へ避難することが大切だ。
指定緊急避難場所だけでなく他の安全な場所も見つけておこう。

3 避難情報にアンテナを

家族構成によって避難するタイミングはそれぞれ変わる。
避難する場所までの移動時間も確認しておこう。

京都府マルチハザード情報提供システム



自宅をチェックして地域の危険性を知っておこう!!

NEXT STAGE

さあ、ここまでキミが手に入れた知恵を生かして
さっそく自分だけのタイムラインを作ろう!!

お家のひとなど大人のひとと
いっしょに見てね!



雨やまへんなあ

ハザードマップ見てみいひん!?

災害あった時に危ないことが
教えてくれるマップやねんて!

どのタイミングで避難するとか
万ーに備えての行動考えてみん!?

トライアル

家族や地域の方と相談しながら、
独自のタイムライン
を作っておきましょう。

ソナエの味方

「タイムライン」の基本を学ぼう

タイムラインとは、いざという時に慌てることがない
ように、災害に備えた行動
を決めておくものです。

川近いし怖いよな...

なにそれ!?

見た、やばい

氾濫したらうち
危ないかも...

いつどこでどうするか、とか
いうやつやんな!?
やってみよ!!



家族で タイムラインを作ってみよう

タイムラインって？

普通じゃない雨風が何日も続いている。テレビはずっと臨時ニュース。近くの川の橋のすぐ下まで水が来てる。



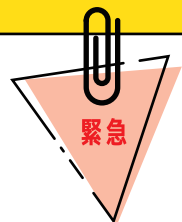
氾濫したらどうしよう？

どこに逃げよう？



「その時」になってから考えていては、私達自身や家族の安心安全は守れません。いざという時の為危機感を持って備えておく事が大切です。今からお話する「タイムライン」は、きみ自身・家族の大切な「いのち」を守る為のツールです。さあ、きみが主導して家族みんなにもっと安心・安全を!!

Q 私たちの街に台風が直撃予想！
どうする？



A 作っておいたタイムラインを用意する！

タイムラインには自分達の住んでいる地域の特徴を踏まえた避難行動を書いておきます。慌てる事のないようにしっかり準備を整えておきましょう。

地域の特徴は…？



01 いつ

「いつ」を決める事で迷う時間を減らし、見通しを立てて速やかに行動する事ができるようになります。

02 どこへ

「どこへ」を決める事で指定緊急避難場所への移動が難しい場合でも、近隣の比較的安全な場所に避難することが出来ます。

03 どのように

「どのように」避難するかを決める事で、避難時の協力関係を確認できます。

「その時」パニックにならないように
きみが率先して家族会議しよう!!▶▶▶

僕たち
私たち
だけの

タイムライン（簡易版）を 実際に作ってみよう！

簡易版 タイムライン トライアル

自宅の危険性？

1 洪水浸水想定区域にある？
☐ はい ☐ いいえ

2 想定される浸水の深さは？
m

3 建物の種類が想定される区域にある？
☐ はい ☐ いいえ

4 土砂災害（特別）警戒区域にある？
☐ はい ☐ いいえ

早期注意情報 1 2 3 4 5
大雨・洪水注意報 避難指示

高齢者等避難 緊急安全確保

	水害	土砂災害
避難の合図！ どのタイミング？	(例) 避難指示	(例) 高齢者等避難
避難先！ 指定緊急避難場所への避難だけでなく、安全な自宅の上階や親戚や知人の家への避難も検討しよう	(例) 自宅の上階 △△小学校 〇〇さん家	(例) マンションの上層階 □□中学校 〇〇さん家
メモ ペットのコト 持ち物のコト 近所のコト	(例) ・防災リュック、水を持ち出すこと ・〇〇さんはペット受け入れ許可済み（ キャリー と フード 忘れずに!!） ・お隣のおばあちゃんに声を掛ける!! お父さん お母さん 僕 私 お水 防災リュック タマのキャリー 手提げ	この子避難所連れてって大丈夫かな…

うちのマンションなら浸水しても大丈夫!?

うちはペット受け入れ許可済み（**キャリー**と**フード**忘れずに!!）

お隣のおばあちゃんに声を掛ける!!

お父さん お母さん 僕 私
お水 防災リュック タマのキャリー 手提げ

この子避難所連れてって大丈夫かな…

01 check!!

ハザードマップを確認して家族が全員一緒に動けるか、いざという時の状況を確認しよう！

ハザードマップには各災害が発生した時の自宅の状況（浸水するか、浸水したらどれくらいの高さまで浸かってしまうか）が色の濃さで一眼でわかるようになっているよ。家族で相談しながらチェック☑をつけてみよう!! 03 のメモ作りの時にも役立つよ。

02 check!!

どのタイミングで避難を始めるかマルをつけておこう!!

テレビやラジオのニュースで気象庁が発表する初期の注意報・警報から始まってそれぞれの家庭の状況で自分達でも判断しなくてはいけなくなってくるね。おじいさんおばあさんがいるか、ペットがいるか、一軒家がマンションか、皆で考えてどこで避難行動を始めるか、マルをつけておこう!!

家は浸水地域じゃないから状況を見てみようかな…



“黄色”は？
避難するか検討を始めよう。

“赤色”は？
直ちに安全を確保しよう!!

“紫色”は？
全員が直ちに安全を確保しよう!!

03
check!!

避難を始める合図・どこに逃げるか。忘れてはいけない事は
メモに書いておこう!!

水害でいよいよ家の周りが濃い色になってきた! スマホからもずっと警報音…。
そうなった時どこに逃げるか、何を持っていくか、一目でわかるように簡潔に
書いておこう!! ペットがいるなら避難先へは連れて行けるかな? 誰かのお家に
避難するなら事前に相談しておこう。食べ物や飲み物、近所に心配な人はいない
かな? 慌てないように、家族みんなで相談して誰が何を持つのかも決めてお
くといいかもかもしれないね!

お母さんが持てない
荷物は私が持とう!



さあ、いよいよ実践だ!!

実際に家族で相談しながら書いてみよう!! 真っ白な紙に気になることを
とんとん書き出してから書いても良いし直接書いても大丈夫。書き方・
使い方はキミヲダイ。間違えても何度でも書いてみよう!!

簡易版 タイムライン トライアル

自宅の危険性!!

1 洪水浸水想定区域にある? ☐ はい ☐ いいえ
 ↓ はいの場合…

2 想定される浸水の深さは? m

3 建物の倒壊が想定される区域にある? ☐ はい ☐ いいえ

4 土砂災害(特別)警戒区域にある? ☐ はい ☐ いいえ

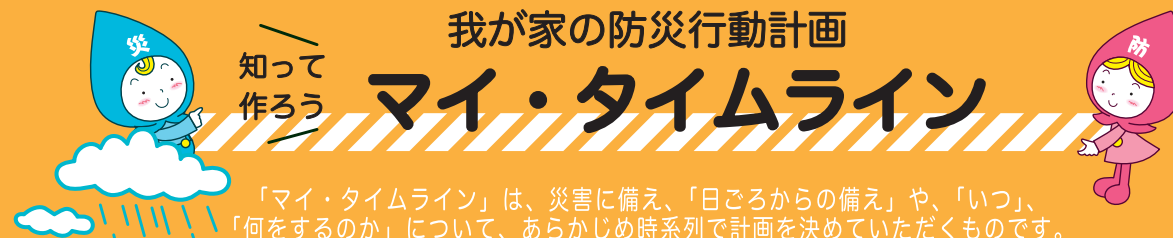
早期注意情報 高齢者等避難 緊急安全確保

1 2 3 4 5

大雨・洪水注意報 避難指示

	水害	土砂災害
避難の合図! どのタイミング?		
避難先!		
メモ ペットのコト 持ち物のコト 近所のコト		

★できたら切り抜いて目立つところに貼っておこう!!



「マイ・タイムライン」は、災害に備え、「日ごろからの備え」や、「いつ」、「何をやるのか」について、あらかじめ時系列で計画を決めていただくものです。

京都市では、我が家の防災行動計画「マイ・タイムライン」の作成ツールを準備しています。
住んでいる場所や家族構成によって、災害時に取るべき行動やタイミングは異なります。
日ごろの備えや起こったときの行動を考えておくことで、スムーズな避難につなげることができます。
家族や地域で相談しながら、それぞれの「マイ・タイムライン」を、ぜひ作ってみてください。

水害・土砂災害用 マイ・タイムライン

ハザードマップで想定される被害をチェック

避難行動判定フローをチェック

家族構成に応じた、避難のタイミングをチェック

段階ごとの行動を決める

マイ・タイムラインの完成!

水害・土砂災害用 マイ・タイムライン

ハザードマップでチェック	避難行動のチェック	避難の判定のチェック	
●自宅の危険性 洪水浸水想定区域 【〇〇】、3～5m未満	●避難場所 自宅の上【3階】 所要時間【3分】	●避難に支障が必要な人 (高齢者、障害者、乳幼児、妊婦など) いる → 高齢者等避難 が必要! ※その他の避難タイミング 前の段階から承知されたとき	●ペット いる
●自宅の危険性 土砂災害(特別)警戒区域	●避難場所 指定避難場所【〇〇中学校】 所要時間【20分】	●避難に支障が必要な人 (高齢者、障害者、乳幼児、妊婦など) いる → 高齢者等避難 が必要! ※その他の避難タイミング 前の段階から承知されたとき	●ペット いる

※実施段階や状況により想定される被害は状況により変化します。状況によっては、計画より早い避難行動を起こさることも大です。

地震用 マイ・タイムライン

ハザードマップで想定される被害をチェック、
地域の集会所などをチェック

日ごろの備え(備蓄、耐震・家具対策、
保険加入など)をチェック

段階ごとの行動を決める

マイ・タイムラインの完成!

地震用 マイ・タイムライン

ハザードマップでチェック	避難行動のチェック	避難の判定のチェック	
●自宅の危険性 震度5弱	●避難場所 〇〇中学校、〇〇公園 (近所にある集会所、公民館、体育館)	●避難に支障が必要な人 (高齢者、障害者、乳幼児、妊婦など) いる	●ペット いる

※実施段階や状況により想定される被害は状況により変化します。状況によっては、計画より早い避難行動を起こさることも大です。

作成ツールは2種類準備しています!

①ウェブサイトで作成!
(京都市防災ポータルサイト)



京都市防災ポータルサイト マイ・タイムライン 検索

②リーフレットで作成!
お近くの区役所・支所、消防署で配布中



FACILITATION

想像力・思考力・判断力

子どもファシリテーターが京都の未来を守る。

災害は自分ごと、そして家族ごと。

家族でファシリテーションを実践してみよう!!

防災教育には ”ファシリテーション!!”

防災ファシリテーションを用いることで、一人では判断に悩む対処行動について可視化（見える化）されたグループでの対話が理解を助けます。また、様々な考え方に気付かせ、想像力・思考力・判断力を育成します。判断・行動と理由、裏付けとなる知識をつなぎながらみんなで考える防災教育は、災害時のみならず、よりよい未来を対話から創出しようとする力を子どもたちに育みます。

ファシリテーションとは

ファシリテーションとは、人が集まって何かをする時にお互いの良い所を生かして創造性を高め、目標を達成したり、良い成果を出したりする事をより容易にする考え方・方法です。討論ではなく、相手の良い所をどんどん見つけましょう!!



ファシリテーションのルール 4ヶ条

- 1 否定しない!
 - 2 最後まで聴く!
 - 3 書く・描く!
 - 4 協力する!
- 安心して言える、受け入れてもらえる
話し合いがぶれず、確実に成果が出る

大人も子どもも ”自分ごと” としてとらえて進めることが大切です。

身近な場所や出来事と災害を関連付け、災害を自分ごとにする。

STEP1

ふだんの学校や地域の写真と、例えば地震が起こったときの被災写真を対比させます。こうすることで、自然災害が起こったとき、自分の身の回りにどのような危険が潜んでいるかを具体的にイメージすることができます。子どもの意識が “自分ごと” に変わると、普段見ている景色が “全く違う景色に見える” ようになり、危険予測能力を飛躍的に高めます。

自分の地域を、普段と異なる視点で見つ・聞いて・感じる体験をする。

STEP2

危険箇所の予測をサポートするチェックリスト・白地図・カメラ等を持ち、まち歩きをします。自分のまわりの危険箇所、困った時に助けてくれる人がいる場所や、災害時に役に立つ場所等を、地域の大人（牽引者）と一緒に調べます。牽引者には、子どもが自ら気付くことが大切なことを伝え、一方的に教えるのではなく、子どもに気付かせる促し方や問いかけの例を伝えます。

自分の命を自分で守るために、危険回避方法や大切なこと等を話し合う。

STEP3

模造紙等の中央に地図を貼り、調べた危険箇所や役に立つ場所等をシールで色分けして、整理します。撮影した写真と位置情報を関連付けて、写真のそばに理由などを書きます。一番怖いと思った場所の写真を一人数置き、その場所などでどのようにして命を守るのかを、一つずつ、全員で話し合います。“自然災害から自分の命を守るために大切なこと”を確認して、模造紙等にまとめます。

家族で “ファシリテーション” を実践するためのポイントとは?

“HINT”



京都女子大学 発達教育学部・教育学科教授
東山区住民の防災力向上支援プロジェクト代表
岩崎 保之 氏

ホワイトボードで対話のきっかけをつくりましょう。

大人も子どもも何かと忙しい現代社会。家族の生活パターンはバラバラで、ゆっくりと対話をする時間が取れないご家庭も多いことでしょう。リビングの壁に 1 枚、90cm×60cm 程度のホワイトボードを掛けてみませんか。予定、イラスト、家族へのメッセージ……何でも OK です。それを親子で声をかけ合うきっかけにすると Good です! 「家族ファシリテーション」のきっかけになります。情報の可視化（見える化）と共有が日常の風景になれば、災害時にアナログ伝言板を活用する際にもとまどいません。

KYOJO BOSAI GIRL

ファシリテーションをやってみた!!

テーマ 子どもの防災意識を高めるためには?



教育実習やボランティアなどで学校・子どもたちの様子を理解している学生が、今の子どもたちの防災意識の現状から課題を見つけ、学校、家庭、地域の中で子どもたちにどのように防災意識を高める取り組みをしたらよいかを、ファシリテーションで話し合いました。

手法: KPT 法

KPT (ケプト) とは

KPT (ケプト) 法を用いることによって、振り返るべき項目が整理され、「何をすれば良いのか」が明確になります。

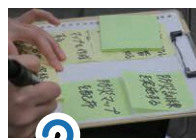
Keep ▶ よかった点を続ける
Problem ▶ 問題点を見つける
Try ▶ 改善点に挑戦する

ファシリテーショングラフィックはこちら!



STEP1

Keep Problem



学生生活や地域連携において、子どもと触れ合う中で感じた防災活動や意識について、評価できる点 (Keep) と、もっとこうすべきだと感じた課題点 (Problem) について、それぞれ付箋に書き出します。



書き出したら評価できる点をグラフィックの Keep のスペースにフィードバックしながら貼っていきます。Keep と同様に、問題点をフィードバックしながら Problem のスペースに貼っていきます。

STEP2

Try



今回のファシリテーションの目的は問題解決です。フィードバックが終わったら、続けること・新たに挑戦することを Try に可視化（見える化）します。今回のファシリテーションでは、「地域・家族」「避難訓練」「リアリティ」「意識」の4つのカテゴリができました。



子どもの防災意識を高めるための工夫をグラフィックに書き出し、解決策を膨らませていきます。



話し合いが終わったら、一人ひとりが子どもの防災意識を高めるためにどう啓発していくかを語ってシェアします。

これで、ファシリテーションは終了です!

防災は話し合いから。家族でファシリテーションを実践してみよう!!

Sonaeru Times 小学生応援企画!!

学生が取り組むファシリテーションの様子を Sonaeru Times の

防災啓発用 TikTok アカウントで限定公開!!

動画を参考に、家族でファシリテーションにチャレンジしてみよう!!

Sonaeru Times 防災啓発用 TikTok アカウント URL: <https://www.tiktok.com/@sonaeru-times>



京都女子大学

特集協力:
京都女子大学 発達教育学部・教育学科教授
東山区住民の防災力向上支援プロジェクト代表
岩崎 保之
プロジェクト企画学生・研修生 付

紫魂



今、冒険が始まる。

FROM PLAYERS ▶▶▶ FOR HEROES



コロナと戦う小学生へ。

... 京都サンガ F.C. の選手たちからのエール！ ...



コトノちゃん

パーサくん

#18 松田 天馬

#16 武田 翔平

前を向って
共に頑張ろう!!

“ポジティブ”に
笑顔で明るく元気に
乗りこえて行きましょう!

16

みんな輝け。
～「みんなで」の「みんな」が、未来を輝かせる～
KYOTO SANGA F.C. 2022

宝物

家族との
過ごす時間は

13

#13 宮吉 拓実

#9 ピーター・ウタカ

STAY POSITIVE
KEEP SMILING

笑顔で、
前向きでいよう。

PETER UTAKA

ごはんたくさん食べて
元気に 明るく 共に
乗り越えていきましょう

#7 武富 孝介

7



ともに、がんばろう。

心をひとつに。京都サンガ F.C. は小学生の未来を応援します!